

「土器と古代”宅配便”」を使った授業について

花 島 理 典

目 次

1. はじめに	497
2. 本校で実施された「地域の先生の学習」について	497
3. 「古代の人々のメッセージに耳を傾けよう」の授業展開	498
4. 授業を受けた生徒達の感想文	500
5. 授業を終えて	501

このレポートは、平成11年度と同12年度の2カ年間、筆者が居住する地域内にある千葉市立朝日ヶ丘中学校で実施された学区内に居住する人が、自分の職業や趣味を題材にして生徒の前で1時間の授業を行う「地域の先生の学習」の一講座として展開した授業に関する概要を紹介するものである。

1. はじめに

筆者が授業を行った千葉市立朝日ヶ丘中学校は、千葉市北西部の花見川区朝日ヶ丘に所在し、周辺には住宅・都市整備公団が宅地開発した「にれの木台団地」がある。本校の北約200mの所に（財）千葉県文化財センターが昭和58年度に調査した「蓑輪遺跡」がある。最寄り駅はJR総武線新検見川駅である。昭和58年4月に千葉市で47番目の中学校として開校した。生徒数450名ほどの中規模の学校である。創立20周年を迎え、地域の青少年育成活動が活性化し、地域の大人が生徒達を見守ろうという意識の強く持ち、そのための前向きな取り組みがなされている地域である。

2. 本校で実施された「地域の先生の学習」について

第1回目は、平成12年3月18日（土）に1、2年の生徒418名を対象に（卒業式がその前に行われたので3年生の参加はなかった。）、11講座が展開された。

また、第2回は、平成12年11月18日（土）に全校生徒612名を対象に13講座が展開された。

この「地域の先生の学習」の趣旨は次のとおりである。（朝日ヶ丘中学校「地域先生授業実施計画」より抜粋）

本校が取り組んでいる「地域ぐるみ教育」の一環として、地域の皆様方が「地域の先生」となっていただき、五十分の間の授業を実施していただくことになりました。

地域の教育力、特に保護者を初めとする地域の人たちに社会人一日講師として授業に参加していただき、学習することは、生徒に新鮮な感動を与えると同時に、学習意欲を喚起させ、自主的自発的な学習を促すことにつながると考えているからです。また、「生きる力」を基調として「知の総合化」を目指すこれからの教育には、実社会について意識を持ってもらうことが重要であり、学校で学ぶことがらと実社会で学ぶことがらと実社会で生きていくために必要な力を、どう融合させていくかが今後の課題であるとも考えています。進路学習の面からも自分を見つめ、将来を見すえて自分自身を考える必要のある中学生段階で、このような学習は大切であると思います。（中略）

今回は進路学習の一環としての授業ですが、今後は生徒の様々な興味関心を十分に伸ばさせるために、学習の内容も部活動や各教科等の授業、趣味的なものなど、多くの分野で展開できればよいと考えております。（中略）

したがって、こうでなければならないというものはなく、講師である皆様の自由な授業をお願いするだけです。使用する器具や場所についても本校で準備できる範囲のものであるならば自由にお使いいただけます。（中略）

以上のような趣旨から、保護者のネットワークや生徒の情報などから中学校の学区内に居住する方に、「地域の先生」の打診が行われ、授業を行う約1ヶ月前に学校で正式な依頼と打ち合わせを行い、実際の授業を行った。

(第1回の講座のテーマ)

- ・「水道のパイプの構造と働き」「植木と町並み」「公務員という仕事」「生活とデザイン」「英語に親しもう」「家庭生活と電気」「社会保険と私たちの暮らし」「文化財と私たちの暮らし」 計8講座実施

(第2回の講座講座)

講座名	学 習 テ ー マ	講師のプロフィール	受講者数
A	「私の選んだ道」樹が好き！花が好き！人が好き！	建築会社社員	36
B	独立を志せ！（アルバイト中に選んだ仕事）	建築会社役員	37
C	より身近かな金融機関を体験してみませんか	郵便局長	30
D	我が家の電気屋さんになろう！	電気店経営	39
E	福祉って何！ボランティアって何！	大学教授	39
F	若さ、青春を気楽にお話したい。	会社員	37
G	異文化の理解	英語教室教師	39
H	大いに遊ぼう～レンズを通して創るもの	地方公務員	49
I	「保険」って知っていますか	社会保険労務士	35
J	夢を持ち続けるために（元日本女子バスケット選手）	バス運転手	82
K	古代の人々のメッセージに耳を傾けよう	教員（筆者）	51
L	他人の痛みがわかる人に	警察官	42
M	デザインの話	大学教授	43
N	看護	看護教員	41

3. 「古代の人々のメッセージに耳を傾けよう」の授業展開

平成12年11月18日（土）に実施した第2回目の「地域の先生の学習」授業について説明する。

授業のねらい：

- ① 埋蔵文化財の調査や歴史の事象に興味や関心を持ってほしい。
- ② 普段触れることのできない土器や石器に触って、その感触や古代人たちの技術の素晴らしさを感じてほしい。
- ③ 食べ物探しや火おこし体験を通じて、食物や火を得ることの難しさを感じとってほしい。
- ④ グループで活動することで協力の大切さを理解してほしい。

授業展開：午前10時30分～11時20分（50分） 当日の天気は晴れ。

授業者が用意したもの：

- ・「土器ッと古代”宅配便”」の土器と石器、1組 [市原市「村上遺跡群」の遺物が中心]
添付された「火おこしセット」 4組

(このセットの借用については、筆者が千葉県文化財センターに依頼したが、書類の手続きは学校の教育活動の一環として位置づけられるので、この「地域の先生の学習」担当者が行った。)

授業場所：木工室（火おこしを行うので、教室の外に広いベランダが設置されていたため）

授業を受けた生徒数：51名（1～3年生男女）、生徒の希望によって、受講講座が決定された。そのため、前ページ表のとおり講座によって生徒の人数が大きく違っている。

授業補助者：中学校側から授業補助のため2名の教師が本講座についていただいた。

生徒の受講形態：木工室の机（1台に6人）に学年や男女に関係なく自由に着席して受講した。

(授業展開の概略)

学習段階	学習内容及び配慮した点	時 配
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・「土器ッと古代”宅配便”」の土器や石器を生徒達に提示して、それらの時代について添付された年表を使い簡単に説明する。 （どうして、土器や石器が何年前のものだとわかるのかを、地層との対比から説明する） （生徒達を前に集めて代わる代わる土器や石器に触れさせたり、個々の質問に答えるようにする） <p>※事前に教室の前に、「土器ッと古代”宅配便”」に梱包された土器や石器、遺物の出土した遺跡の説明パネルや年表をわかりやすく展示しておく。</p>	10分
学習を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県文化財センターの仕事」の紹介ビデオを見る。 （文化財の発掘や整理作業から、古代の人々が残してくれたメッセージを地道に解き明かしていることを説明する） ・「もうすぐお昼です。今から、古代の人々の気持ちになって学校の敷地内を歩いて食べられそうなものを探してみよう」 （古代と環境も違うし、生徒達も食べられるかどうか知識もあやふやなので、何人かのグループに分かれてお互いに相談しながら 探してみるように声かけをする） ・実際に生徒達が集めたものを教室の前に広げてもらい、どこで取ってきたかを説明してもらおう。 （実際に拾ってきたものは、どんぐりや木の実が少し、校内の畑に残っていた野菜などで実際に食べられるものはほとんどなかった） ・古代と条件がかなり違うが、食べるものを集めることがいかに大変なことかを生徒達が実感する。 	15分 20分
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業のまとめをする。生徒の何人かに今日の授業の感想を話してもらおう。 ・「土器ッと古代”宅配便”」に添付されていた「火おこしセット」 を使って火おこしの体験をする。 <p>※「火おこし」は、教室脇のベランダで実施した。2セットしかないので何人かのグループに分かれて、交代で「火おこし」を体験してもらうようにした。その際、筆者と授業補助の教師が、生徒達について事故のないように安全面に配慮して指導に当たった。</p> <p>そのため、正規の授業の時間内では収まらないのでこの体験だけ延長して行った。</p>	5分 (10分)



筆者の生徒への説明の様子



実際に石器に触れているところ

4. 授業を受けた生徒達の感想文

・この講座を受講した生徒51名が全員、学校が用意したA4判用紙1枚に授業を受けた感想を書いて提出した。後日、全員の感想文が筆者に送付されてきたので、何人かの感想文を紹介する。なお、表現は原文のとおりとした。

11月18日に私たちの学校に来て、古代の人のことについて教えてくれたり火おこしや黒曜石を見せてくれてありがとうございました。食事をするにも食べ物を探してこなくてはいけないし、それを煮たり、焼いたりするには火をおこさなければならなくて、古代の人は大変だったなあと思いました。

黒曜石で手を切ったりとかしなかったのかなあと思いました。また、本当の土器などをさわることができてうれしかったです。(1年女子)

食べ物を探し出すのは、むかしの人は、本当に大変だったのだらうと思いました。今は、食べられるもの、食べられないものの区別はつきますが、むかしはどれが食べられるか、食べられないかなんてわかっていなかったの、大変だらうと思いました。

火をおこすのにも、むかしはいろいろな道具を使ってとても苦労したんだらうと思います。石で紙などを切るのは本当にすごいと思いました。

今は、食べ物だって、火をおこすのだって簡単だけでも、むかしの人々は、今だったら簡単にできることも、とてもむずかしいと思います。

今回、この講座を学習して本当によかったです。(1年女子)

先生のおかげで古代の文化がよくわかりました。これからは昔、昔へとさかのぼって古代の文化にふれてみようかなと思っています。ありがとうございました。先生のおかげで社会に興味がもてました。本当にありがとうございました。(2年男子)

この講座を受けて一番印象に残っているのはやっぱり火おこし。火おこしをやって、むかしの人たちはこんな大変な思いをして火をつけたんだなあ、と思いました。火の棒にひもをまいて引くと木の棒が回って、だんだん煙が出てきて、それに木くずをつけると火がつく。現代の人はライターやガスなどで火をつける。やっぱり、そういう人は一回火おこしをやってみて、火のありがたみというのを感じてみたほうがいいと思いました。(2年男子)

去年も、この講座を受けさせてもらいました。前回、火おこしは失敗してしまって…。今回やっている

人を見てちょっと悲しかったです（結構火がついていたので）。前回と変わらず、むかしの人々の大変さが身をもってわかりました。また、ふだん見ることのない土器や写真などを見て感心しました。意外とびっくりしたのは、朝中の中にも食べられそうなものが少しあったことです。でもそんな少しじゃいきていけないので、やっぱりむかしの人々はすごいなーと思いました。

古代の人々のたいへんさ（メッセージ）がすごく伝わった気がしました。（2年女子）

今回、私は初めて文化財というものに触れたり、体験したりしました。それはとても興味深く、私はすぐに関心を持ちました。なんだか、文化財を見るだけで、どんな生活をしていたか、そういうものがどうしてわかってしまうのが、私にはとても不思議だったし、外に出て、自分たちの食べられるものを探したりする体験も何もかも、初めての新しい感覚でした。気づくと、自分がこういうものにすごくのめり込んでいるのがわかって、「こんな道に進むのもいいかなあ」と、進路について深く考えさせられました。久しぶりに、こんなに楽しくておもしろい思いをしたと思っているし、ぜったい、自分自身の中に何か新しい発見ができたと思います。最後に、本当に、本当に楽しかったです。今回は、私にいろんな路を開いて下さって、ありがとうございました。（3年女子）

5. 授業を終えて

2年連続で、この講座を受け持って授業を展開した。基本的な授業の組み立ては、①「土器ッと古代”宅配便”」の土器や石器を直に触ること。②「土器ッと古代”宅配便”」に添付されている”火おこしセット”による火おこし体験をすること。の、2点であった。中には、2年連続で「古代史講座」に参加した生徒もいたが、多くは初めて参加し、大なり小なり興味を持って参加してくれたようである。

生徒達が授業後に自由に記述した『感想文』に生徒達の授業に対する反応からまとめてみると、大多数の生徒が「火おこし」の体験に対して印象を強く持っていたようである。実際に火おこしをして、火がおこせた生徒達は感激をしている。

次に、土器や石器を直に触ることができたことに感動したことが続いた。それらの肌触りや重さ、文様の特徴等をじっくり観察できたことに感動を覚えたようである。

そして、校内の植物採集である。これは、古代人達がいかに食べ物を採集することがたいへんなことが実感としてわかったようである。

また、考古学、または、歴史に関して興味が沸いてきた。と思う生徒が、半数近くいたことがよかった。初めにちょっとしたことに興味や関心を持ち、そこから学問のおもしろさを感じとることができるようになっていくのだと思う。

NHKのテレビ番組で『ようこそ先輩！課外授業』というものがある。現在、”その道”で第一人者として活躍している人が、自分の母校（小学校）に行って、生徒達に思い思いの授業を行う。その生徒達が、初めのうちは何をやっているのかわからなかったのが、自分たちでその時間の終わりにまとめの表現をしていくと、たいへん素晴らしい成果が現れ、生徒一人ひとりがとても満足した顔で”先輩”を見送る。やはり、”その道”を極めた人のひと言が生徒達の心に響いていくのだということがわかる。

この「土器ッと古代”宅配便”」を使った普及事業に関する詳しい報告は、当センターの『研究連絡誌』

第64号（平成15年3月）の『普及事業「土器ッと古代”宅配便”」－見て・さわって歴史体験－について』（白鳥 章）にある。その報告書の年度別提供数の推移（表1）によると、中学校への貸し出し数が小学校の増加数に比べるとそれほど多くない、その原因についての考察もあるが、歴史の授業に導入に使うと、生徒達の歴史に関する興味や関心を引くことは間違いなしである。この「土器ッと古代”宅配便”」を一人でも多くの教師が使ってほしいと思う。

今回の私の授業がそれを意識したわけではないが、結果として、多くの生徒達が考古学に対してよい印象を持ってくれたことに私個人として、授業を行ってとてもよかったと思っている。

限られた時間の中、たった1回の授業で、どれだけ考古学について興味を持ってくれたかはわからないが、「土器ッと古代”宅配便”」という歴史資料を使って、肌で感じる体験によって良い成果が得られたことは価値のあるものであったと思う。

現在、私は船橋市立船橋養護学校の教諭をしており、現勤務校でのこのような形態の授業を行うことができないが、他の場所でこのような機会があれば、「土器ッと古代”宅配便”」の資料をさらに活用して、一人でも多くの生徒達が考古学に対して興味・関心を持っていけるような試みをしたいと思っている。

最後に、この拙い研究レポートを受け入れてくださった（財）千葉県文化財センターの方々、授業展開や資料提供にご協力いただいた千葉市立朝日ヶ丘中学校の関係者の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

白鳥 章 2003「土器ッと古代”宅配便”－見て・さわって歴史体験－について」『研究連絡誌』第64号